

鳥獣害対策に係る基本的な知識・技術の普及の取組

(大分県鳥獣害対策アドバイザー養成研修会)

- 県や市町職員、集落リーダー、共済組合、猟友会、農協、森林組合等を参集し、対策の基本的な知識や技術を普及。特に集落環境整備及び予防対策の徹底を図るため、事業を活用して防護柵を設置する集落については積極的な参加を促進。

取組内容

【研修の概要】

- H20年度から毎年開催(集落点検研修2回、防護柵設置研修2回を開催)
 - 集落点検研修…集落点検に係る室内研修の後、講師と共に集落を巡回し、点検方法等の現地研修を行う
 - 防護柵設置研修…防護柵設置に係る室内研修の後、防護柵設置・点検等の現地研修を行う
- 2つ以上の研修の受講により、大分県鳥獣害対策アドバイザーに認定
- 講師は主に農研機構 西日本農業研究センターに依頼
- H29年度からは既存の認定アドバイザーの研修も実施



室内研修で基本を習得



実際に集落を点検



実際に防護柵を設置

成果

- アドバイザー認定実績(H20～R2年度)
全市町で77回研修を開催し、延べ参加人数は6,264人(R2年度は248人)、アドバイザー認定者数は1,531人(R2年度は85人)

市町職員	県職員	集落代表	共済組合	猟友会	農協	森林組合	森林管理署	鳥獣保護員	その他
449	371	388	100	76	62	28	33	7	17

- 県内の被害額は、平成12年度の5.5億円から令和2年度の1.7億円と、70%減少

鳥獣害対策に係る基本的な知識・技術の普及の取組(大分県鳥獣害対策アドバイザー養成研修会)

【課題】

- 対策の基本的な知識・技術の普及
- よくある誤解や思い込み(農村伝説)の解消

【背景】

- 被害額の低減が不調

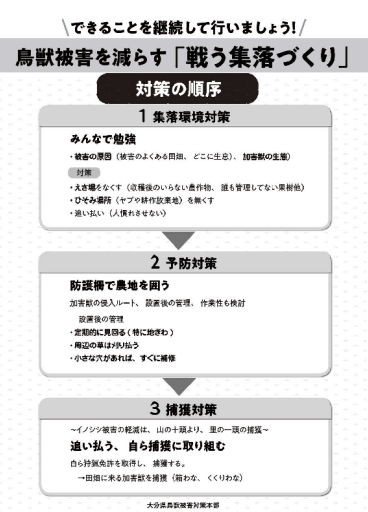


Step1
研修会に参加

Step2
研修で集落の点検、
柵の設置を体験
(アドバイザー認定)

Step3
アドバイザーが
地元の集落で対策
を実践

Step4
被害額の低減



防護柵設置・点検の現地研修



【成果】

- 令和2年度の被害額は1.7億円となり、過去最小を記録

【今後の取組】

- アドバイザーが積極的に現地指導を行うことができる体制の構築

